

令和6年度第6回

隠岐の島町立小中学校のあり方に関する検討委員会 会議録

1. 開催日時 令和6年11月27日(水) 13時30分～15時00分

2. 開催場所 隠岐の島町役場 3階 303会議室

3. 出席者

1号委員	角脇 一夫	富田 信吾
2号委員	吉田 輝美	吉山 明利
3号委員	池田 明生	吉崎英一郎 (Web 参加)
4号委員	常角 辰夫	佐藤 格丈
	石田 千恵	

【事務局】

総務学校教育課長	金井 和昭
総務学校教育課総務係 係長	大上 達也
総務学校教育課総務係 企画幹	村尾 駿

4. 欠席者 なし

5. 報告事項 前回会議録の確認

6. 会議の経過 別紙のとおり
議録作成者 総務学校教育課 総務係 大上達也

別 紙（会議の経過）

1. 前回会議録の確認

【事務局】開会前に、出席者の確認と前回会議録の確認を事務局の方で進めさせていただきます。

委員の吉崎委員はWebでのご参加となります。吉崎委員は出張中のため、移動中でのWeb参加となりますので、意見を述べるのが難しい環境かもしれませんが、拝聴する形になるかと思いますのでご了承ください。その他の委員は出席となっております。また、事務局は全員出席です。前回会議録の確認ですが、今日までのところ特にご意見がなかったように思いますが、よろしいでしょうか。

【全委員】意見なし。

【事務局】ありがとうございます。それでは、着座にて進めさせていただきます。委員長、ご挨拶をお願いします。

2. 委員長あいさつ

【委員長】本日は大変お寒い中、皆様にお集まりいただき誠にありがとうございました。10月の第5回会議において、これまで検討してきた内容を基に、今後の隠岐の島町の小・中学校の統合や配置のあり方について、皆様からご提案をいただくようお願いしておりました。

本日の資料を拝見しますと、たくさんのご意見やご提言をいただいております。本当にありがとうございました。皆様からいただいた貴重なご意見を大切に、同じような内容はまとめて、意見交換をしながら進めていきたいと思います。

今後も様々な検討を重ね、隠岐の島町の小・中学校の適正な教育環境をより良いものにしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

3. 協議事項 提案書について

【委員長】皆様からいただきました提案書について、事務局の方で1回読んでいただけますか。

【事務局】資料の構成についての説明及び提案事項の読み上げ。

【委員長】ありがとうございました。幅広くいろいろなご意見をいただいております。皆さんからのご意見の中には、この委員会で今までに議論しなければならなかったこともたくさんあったように思います。

そういう面で、皆さんからいろいろ出されたことは、とても良かったと思っております。せっかく出していただきましたので、一つ一つ確認していきたいと思います。ここに書いてあることは、委員の誰もが懸念事項として持っていることだと思います。

とても大事な意見ですので、会議資料の順番に従って意見交換をしてみたいと思います。少し時間をとりますが、小中学校の統合や学校配置については、今日のところはそこまではいかなかもしれませんが、その前段としていろんなご意見をお互いに交換し、ある程度の目処をつけながら進めていきたいと思います。

この進め方で、よろしいでしょうか。

【全委員】異議なし。

【委員長】 それでは、最初に小中学校のあり方に関する提案意見の中で、『少子化が止まらない状況で、適正な規模や人数をメインに学校配置を検討することには限界があります。今後のまちづくりとも関わってくることは明らかなです。』また、『数の減少を理由に学校の統廃合を結論づけるのではなく、そうさせないための政策提言や、統廃合が避けられない場合のリカバリー提案などの協議も必要です。』この2点をまとめて、委員の皆さんにご意見を伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。現在の学校配置を検討するのは限界があり、今後のまちづくりとも関わってくるというご意見があります。数の減少を理由に学校の統廃合を結論付けるのではなく、そうさせないための政策提言が必要。これはまちづくりとも関わる重要な意見です。統廃合が避けられない場合のリカバリー提案ももちろん必要です。財政措置や様々な条件を考慮することが当然です。また、現在の段階で学校配置や統合を検討することについてのご意見もあります。これについて、皆さんのご意見を伺いたいと思います。

今までの検討委員会でもいくつかの意見が出ていましたが、第4回の会議で地域振興課長から隠岐の島町の地域振興についての政策についてお話がありました。しかし、学校のことは考慮されていないというご意見もありました。

【委員】 意味が一つ分からないんですけど、『少子化が止まらない状況で、適正な規模に学校を配置することには限界がある』という意見について、具体的にどのような考えでそのように書かれているのか、少しわかりにくい部分があります。この意見が無理だということなのか、その規模を話し合うことによる影響についての懸念なのか、または人数が減少する中での統合のあり方についての意見なのか。例えば、少ないところと少ないところを統合することが良いのか、元々大きな学校を参考にすべきなのか、具体的な意図がわかりにくいです。この案の意見が全く逆の解釈も可能であると思います。だから、意味が一つわからない。

【委員長】 私たちが設定した小学校20人、中学校25人という数字について、実際にその通りにはならないという危惧があるかもしれません。小学校2校なら適正規模を維持できるかもしれませんが、ある程度分散すると20人という規模はかなり難しいというご意見もあります。

ただ、この検討委員会の役割は、将来を見越して5年、10年先を見据えた小中学校の再編成を検討することです。今のままではいけないので、隠岐の島町の子供たちが適正規模で、より良い教育環境の中で勉強できるようにすることが大事だと考えています。そのために、人数やどんな子供が育ってほしいかを設定したわけです。

【副委員長】 話がそれるかもしれませんが、個人的には今だからこそ、こういった話を進めていかなければならないと思います。学校の配置も含めて。保育園を運営している中で、子どもの数が多かった時と比べて、来年には半数まで減る見込みです。減少が続く中で、民間としても5年先には、ひょっとしたら閉園を考えなければならないかもしれない状況です。

その裏には、10数人の職員がいます。民間であっても、子供が少ないからといって職員を辞め

させるわけにはいかず、彼らの生活も守らなければなりません。保育園も学校も含めて、今考えていかなければならないことだと思います。

どんどん進めていかなければならない一方で、学校を改修してもすぐに廃校になることもあります。安易に進めることはできませんが、そういった学校や地域を作らないための配置を考えていかなければならないと思います。これまでの町行政には無駄が多かったように感じます。

【委員長】今だから配置についてですね、将来を見越して考えていかなきゃいけない個人的にそういうご意見でした。そういうことで今この検討委員会で、将来のことをいろいろ皆さんからご意見いただいている。まちづくりとか、それから二つ目のそうさせないための政策提言を我々協議していく必要があるというふうなご意見がございます。まちづくりとか、町の政策提言これについて何かご意見ありますか。

【委員】この委員会である程度の答えを出し、提案の仕方を通じて、先ほど副委員長がおっしゃったように、行政と連携して考えていかないといけないと思います。今後、学校の統廃合の可能性があるという提案が出てくると思います。その際、政策として地域振興とか定住対策ができるか、首長部局とのコミュニケーションが必要だと思います。その意味を踏まえて、提案させていただきます。

【委員長】町民の願いは、布施や中村、五箇や都万の人口がもっと増えることです。そのためには地域の産業振興や住宅政策、交通網の整備、さらには本土から大企業を誘致して大々的に人口を増やすといった地域振興策が考えられます。しかし、これらの施策は一朝一夕には達成できません。

少子化が進む中で、5年10年先に地域振興によって各地域の人口が増えるのは難しいかもしれません。このような不確実な状況の中で、今生きている子供たちやこれから学校に入ってくる子供たちのために、どのような学校教育環境が良いのかを探る必要があります。

それが検討委員会の役割です。地域振興のまちづくりは、ちょっと我々が、この状況の中で考えていくことは違うのではないかと考えていましたが。

【委員】適正な学校のあり方っていうのはここで議論してもいいと思いますが、その地域性だとかを、この後書かれてます。そういうのも考えて配置をどうするか考えないと学校教育ばかりの話、こうあったらいいよねっていうだけの感じがしています。本質ではないと思います。

学校運営するには、こうが良いというものを今まで議論してたような気がして、それに近づけるのにどういう教育環境を、学校側が与えるかと、人数が問題になっているのであれば学校配置をどうしていくかという考え方なので。だから、どうなんでしょう、そこはちょっと切っては切れないと思います。

【委員長】もちろん、よくわかります。確かにそういうご意見もあると思いますし、その通りだと思います。ただ、後に学校の存在意義についてどなたかから意見が出ていましたよね。この学校の存在意義について議論する必要があると思います。学校は何のために存在するのか、という点について皆さんの意見を聞きたいと思います。どうでしょうか。学校は何のために存在するのでしょうか。例えば保育所は何のためですか。

【副委員長】保育所は、まず保護者支援の役割を担っています。平成27年からは、教育と保育を行う施設として定められました。しかし、保育士さんたちはそのような教育を受けていないため、法律だけが先行し、保育士さんたちは困惑しています。普通の保育所と幼稚園の違いも、教育内容は変わらないのに、文科省が管轄するか厚生労働省が管轄するかで異なります。我々は0歳から5歳までの子供たちの保育と保護者支援を行い、就労を助けることを主な目的としています。このような活動を続けています

【委員】学校の存在意義を考えるのは非常に大変ですが、親と子の視点から見ると、まず義務教育としての役割が大きいと思います。小中学校は義務教育であり、保護者としてはまずそれが一番重要です。義務だから学校に行くというのが基本です。学校を見る視点は地域の目と保護者の目で異なります。私は保護者代表として参加していますが、第2回の会議での他の委員の最初の言葉に共感します。保護者の視点から見ると、役員が同じ人ばかりで回っているという問題があります。子供が義務教育を受ける際、親も子供のために努力しますが、少数だと仕事が増えて大変です。親の立場、地域の立場、子供の視点から総合的に学校のあり方を考える必要がありますが、これを求めることができるか。

【委員長】ありがとうございました親の立場、それから子供の立場、地域の立場でご意見いただきました。教育させる義務と、それから子供は教育を受ける権利があるわけです。そこが学校の存在意義、大きなものはそこです。そこで地域と学校はどうあるべきかということになるわけです。やはり地域作りの中で学校も考えなければという意見もあるようですので。

【委員】仕事もそうですが、学校をなくしてしまうと、どこかに行かざるを得なくなります。例えば、僕が隣の地区に行けと言われた場合、五箇、都万、布施、西郷といった選択肢がありました。しかし、今は隠岐の島町が一つになってしまったので、県内に出るしかない状況です。このような結果になると、隠岐に住む必要がないと感じてしまいます。実際、親としても義務教育が終わったら、学校のことは次の世代の子育て世代が考えればいいと思います。環境が耐えられない状況になっているのかどうかずっと疑問でした。地域づくりのための学校という考え方はありません。ただ、地域に住む人にとって地域に学校があることは非常に重要です。統合して学校がなくなるかもしれないという不安があると、生活拠点が決まらない状況になります。学校をなくすべきではないと強く思っています。財政がもたないとか、運営上無理がある場合を除いて、学校をなくすべきではないと考えています。

【委員長】結局地域から学校がなくなると生活基盤が揺らいでくるとそういう考え方で良いですか。

【委員】はい。実際、布施の小学校が何年か前に無くなりましたよね。布施に移住してきた方がいましたが、それが理由で、小学校がなくなった翌年には保育所もなくなったと思います。完全に子育て環境がなくなってしまったのです。その結果、中村に引っ越してきた方もいると思い

ます。このような状況を見ると、子育て世代にとって地域に学校があるかどうかは非常に重要だと感じます。

【副委員長】布施の日の丸保育所の話が出ましたが、あの人数ではやっていけないですね。民間では難しいです。町もまちづくりに関しては財政が必ず絡んでくると思います。無闇に進めることはできません。ただ、飯田小学校の統廃合の話が進んだとき、なくしてはいけないという意見もありました。一昔前、東郷圏域で福祉と教育の村作りを掲げていましたが、人口減少でその計画も絵に描いた餅になってしまいました。しかし、現実的に子供のことを中心に考えると、統合してよかったのではないかと思います。子供たちがそれぞれの進路を見つけて進んでいく姿を見ると、統合してよかったと感じます。

【委員長】吉田副委員長から子供の立場からのご意見をいただきました。他の委員のご意見は生活基盤が揺らぐという地域の立場からのものでしたが、子供の立場から言うのでしょうか。学校はあくまで子供の教育のための施設です。だからこそ、子供一人一人の願いを叶える場所であり、子供たちがやりたいことや頑張りたいことができる場所です。1日の生活の大半を学校で過ごす中で、子供たちは夢を育み、希望を持って勉強します。最も大事なものは、そこで出会う友達や親友です。助け合ったり、泣いたり笑ったりする中で心が育っていく場所が学校です。

学校は子供を育てる場所であるという前提をまず考えるべきです。地域が寂れるのは学校がなくなったからではなく、地域住民の問題です。自治会や集会所、公民館活動を盛り上げて地域を活性化させることが大事であり、行政に頼るべきではありません。ふるさと教育も学校だけでやるものではなく、地域の親や住民が中心になって行うものであり、学校はその補足です。隠岐の島町は一つになったので、旧町村にこだわらず、隠岐の島町全体が故郷であり地域であるという考え方が必要です。松田元町長が「まるい輪の中」という言葉を使っていましたが、隠岐の島町は合併して20年経ち、旧町村も大事にしつつ、島全体がふるさとであるという教育を小・中学校で行う必要があります。

生活基盤が揺らぐというのは確かにあるかもしれませんが、中学校で校区外申請して他の学校に行く子供もいます。自分の願いが今の学校では達成できないからです。検討委員会では、学校の存在意義をもう少し真剣に考える必要があります。もちろん親や地域の立場も考えなければなりませんが、子供の願いが叶う場所であるということを重視すべきです。保護者は、例えば五箇に住んでいても、子供が南中に通うために南中の近くに家を建てることもありますかね。

【委員】去年実際にあったことですが、小学校の校区外で1年過ごしました。校区外の学校から地区に帰っても誰もいません。帰っても、地元の友達は地元の方で集まるわけです。時間帯やスクールバスの関係もあり、結局1年後に引っ越しました。学校があるからだけでなく、生活基盤も含めて、どこを拠点にするか、どの学校に通わせるかを決めていると思います。大人も子供も同じように考えていると思います。

例えば、この地区に住みたいけれど、どうしても部活をこっちでやりたいという場合、親と話し合います。親が「うん」と言えば通わせるでしょうし、ダメならその校区の中学校の部活の中でやることになります。家庭環境によっても違うと思います。

【委員長】そういうのはケースバイケースでいろんな状況があると思います。確かに、校区外の学校に進学した親が学校の近くに家を借りることもあります。それは仕方がないことで、それまで親が毎日送り迎えしていたのでしょう。それも大変ですね。もし統合が進んだら、スクールバスなどが通うことになるでしょうが、具体的な話はまだありません。

【副委員長】保護者や子供たちのために、我々が行っている放課後児童クラブをもっと充実させる必要があります。公立の児童クラブもしっかりと充実させることで、1人でも2人でも多くの子供たちを救うことができます。現在、一生懸命に取り組んでいる児童クラブは共生第一保育所です。

保育園も八つありますが、理由はわかりませんが、1人や2人しかいないことがあります。だからこそ、児童福祉係と教育委員会が協力して、放課後児童クラブを増やし、充実させることが重要です。

【委員長】そういうのがリカバリーですね。十分考えていかなければならないということでしょう。さて、少し時間を取りましたが、学校の存在意義についてはこのくらいにして、次の『地域のしがらみよりも、子供たちにとって何が大切かを最優先に考えるべきです。』というのは、これまで議論してきているので特に議論する必要はないかもしれません。

【委員】よろしいですか。僕は前から思っていますが、表面だけ見て、子供たちが学校で何か目立つことをやったとか、派手なところばかり見て「頑張っているな」とか。確かにそういう場面でしか見せる機会がないので、なるべく子供たちが頑張れるように我々が後押ししますが、その裏に隠れた部分、例えば子供たちが人間関係で苦しんでいるとか、普段のそういうところは見えないわけです。周りにいる人がぱっと見て「かっこいいな」とか「地域が盛り上がっているな」とか。それは、小さな地域の出身だから地域を盛り上げざるを得ないんです。

例えば、昔、学習発表会をやったとき、保護者が10人20人しかいなければ、祖父母が来て30人くらい。しかし、子供のいない地域の方まで来ると100人くらいになるんです。そうやって盛り上げるしかないわけです。だから、そういう意味で盛り上がっているんです。子供たちは限られた人間関係の中で、家族的な意味もありますが、本当に苦しんでいる。僕は小さい地域で育って保育所、小学校、中学校とずっと一緒でした。今は大人になっているからいいですが、親しい人もいれば、挨拶で終わる人もいます。適度な距離の取り方を覚えるから、同級生と仲良くできるようになりました。

しかし、そのときに本当にいじめにあったり、何かやると次の日に切り替えができず、ずっと引きずっていくこともあります。少人数だと本当に厳しい状況があったりします。それも勉強ですが、前にも吉田副委員長の話があったと思いますが、小さい人数で育っていきなり大きな学校に行くと物おじします。それも次第に慣れてくるんですが、慣れるまでは物おじします。ある程度、限られた人数の中で切磋琢磨したり、多い人数の中で嫌な思いをしたり、たくさんの人の中で紛れることもあります。学校の中でしかわからない部分があります。

現役の校長先生に聞いてみればわかりますが、今の学校に不満があるかと聞かれても、絶対に言わないです。教員は置かれた立場でやるしかないんです。少ない人数でも頑張るしかないんです。少ない人数ではこんな教育をしていますと校長先生は言うと思います。学校の方針に従

わざるを得ないんです。何年か前の校長さんの答申には、小規模の人数の教育が素晴らしいと書いてあります。それは隠岐でやってきたからそう書いているんです。本音は出てこないんです。

先ほどの委員の意見はよくわかりますが、他の保護者の人はどうなのでしょう。

果たして本当に地区の保護者の方々がどう思っているのか、しかもそれを本音で語り合うことができるのか。僕は白紙に戻りましたが、北小の話があった際、布施の保護者の方が「早くやってください」と言ったことがありました。統廃合の課題についても同様です。布施で説明会の際に、中村の方がこられて、統廃合が無意味だという意見もありました。

本音でお互いに話し合う雰囲気があるのかどうか。ひょっとしたら言えない空気があるのかもしれない。以前、各地区でよそから来たおばあちゃんが「そんなこと言えない」という空気もありました。実際のところどうか。

【委員】いや、すいません、ちょっといいですか。そこはもう真っ向から否定しますけど、もう、去年からずっとこの話は地区の児童たちと親と話しています。大方この意見です。8割9割が同意しています。珍しいかどうかは個人の感性かもしれませんが、学校側の視点と保護者の視点、地域の視点は全然違います。

【委員長】それで、我々としてどう判断していくかですが、我々は小・中学校のあり方を検討する委員会です。地域のことももちろん考慮しますが、子供たちにとって何が必要かを最優先に考えるべきだと思います。

【委員】ちょっとそれについていいですか。今年の夏、甲子園の話ですが、酷暑の中で試合が行われることを高野連の会議で、球児たちの意見、つまり児童の意見が一切反映されていないという話がありました。理由は、高校生には判断できないというものでした。教員がすべてを決めているのです。

一般人からすれば、高校生球児がどう思っているかが一番大事だと思います。ネット記事によると、暑くても聖地でやりたいという意見が多かったようです。だから、この検討委員会も子供のためと言っていますが、実際には子供や保護者から意見を聞いていないではないですか。根拠のない個々の意見ではなく、その意見を聞いてからの判断で良いかと思います。

【委員長】高校生と小学生とは違いますからね。見方も異なるでしょうし、そこは置いておきましょう。それはあくまで高校生の話です。他の委員さん何か感想でも何でもいいのでお聞かせください。

【委員】小学校高学年の子供がいますが、その子は10何人のクラスで、その人数の生活しか知りません。ずっと保育園のときからほぼ人数が変わっていないので、それが当たり前のよう生活しています。西郷小学校のように30人や60人のクラスを経験したことがないので、大きい学校について聞いても全然イメージが湧かないと思います。大人でさえわからないのに、小学校高学年の子供に大きい学校がどうかと聞いても、想像がつかないでしょう。だから、今のクラスがいいと答えると思います。これは親の感想です。

そのため、子供たちに大きい学校について聞いても、イメージができない子がほとんどだと思

います。経験がないからわからないのです。逆に、大きい学校の子供に小さい学校について聞いてもイメージが湧かないでしょう。保護者も同じで、大きい学校の保護者に小さい学校のことを聞いてもイメージが湧かないと思います。私も逆にわからないし、どういう苦労があるかもわかりません。それは経験してみないとわからないことです。

例えば、小学校が2校しかない環境下に置かれたら、子供たちはそれを当たり前と思って順応していくのではないのでしょうか。徐々に減らしていくのではなく、最初からそれが当たり前という環境を作ってあげれば、子供たちは適応能力が大人よりも強いので、うまくいくと思います。

【委員長】他の委員、意見を聞かせてください。

【委員】実際にはわからないと思います。本当にそうです。交流学习を通じて、より多くの人と学んで楽しいと感じれば良いし、嫌な思いをすれば行きたくないと思うでしょう。良い環境であれば少人数でも楽しくやれますが、嫌な思いをしていると他の子と関われる大きい学校が良いと思う子も出てくるでしょう。本当にいろいろだと思います。

想像できないのはその通りです。おっしゃる通り、そこでどういうふうに住んでいるのかも左右される部分がたくさんあると思います。

【委員長】ありがとうございました。今のところあまり進んでいませんが、いろいろなご意見が出ました。子供のことや地域のことについての意見が出たので、次に進みたいと思います。事務局の方、よろしいでしょうか。次に進む前に、少し休憩を取りたいと思います。

(休憩)

【委員長】時間もだいぶ過ぎておりますが、できるだけ簡潔に進めたいと思います。特に議論する必要はないかもしれませんが、『**隠岐の島町の小・中学校の適正配置については不確定要素が多いため、現時点で明確な答えを出すべきではないと考えております。**』とありますが、検討委員会は将来的な展望を持って議論していることをご理解いただければと思います。

『**ただし、これまでの議論を基に適正配置を考えると、小学校1校、中学校1校ないし2校とするのが妥当と考えます。**』これは将来的に児童生徒数の推移を見て妥当な方向性だという意見です。

『**既存の学校配置や校区を持ち出しての統廃合ではなく、新たな学校配置や校区を設定することが必要です。地域間格差を是正するためにもこれが重要です。**』一極集中の問題も今後加速することが危惧されています。

『**過去の適正規模適正化委員会での議論は、学校教育の部分に重きを置かれたものでしたが、同じ問題、児童数減少や教育環境の整備が再浮上していることから、対処方法でしかなく、解決には至っていない**』という意見もあります。これまで同じことの繰り返しではないかという意見です。

できるだけ将来にわたってこの検討委員会でより良い解決を導き出したいと思います。今のところで何かご意見があれば伺いますが、特になければ次に進みたいと思います。

【各委員】特に意見なし

【委員長】当委員会で追加の具体的な協議事項として、以下のことを協議してほしいということです。

1. **学校の存在意義** これについては先ほどいろいろご意見が出ましたので、次に進みたいと思います。

2. **教育インフラの整備** 『隠岐の島町がどのように教育インフラを整備するかが重要です。これはまちづくりの根幹部分となります。』今後、学校数を現状維持でいくか、あるいは統廃合するかに関わらず、教育インフラを十分整備する予算をしっかりと措置してほしいという願いがあります。

3. **地域性の問題** 『各集落の距離や規模を考慮し、保育園や学校の存在が生活拠点に大きな影響を与えることを理解する必要があります。』これは先ほど委員のご意見で、生活基盤が揺らぐという意見がありました。それに関わるご意見だと思います。これも先ほど議論しましたので次に進みたいと思います。

4. **学校維持にかかる維持費の問題** 『学校運営のための財源確保が必要です。財政面から見た学校数の議論も必要です。』我々の検討委員会である程度目途が立ったら、財政面からもご意見をいただきたいと思います。

5. **校区・校区外申請の問題** 『校区制度の重要性を再確認し、校区外申請の運用を見直す必要があります。』教育委員会に校区外申請の基準がありましたが、それを見直す必要があるということです。

6. **職場経済活動への影響** 『学校に携わる職場や経済活動への影響も考慮する必要があります。』教員数が減ると税収も減り、地域の経済活動にも影響が出るということです。

【委員】6. **職場経済活動への影響**について、委員長のまとめ、それはもちろんですが、学校が一つ減ると、電気やサッシなどの業者が入らなくなります。つまり、その売り上げがなくなり、会社の売り上げが下がると雇用も減ります。経済効果があるのです。給食センターでも同様に、人手が少なくなることもあります。そういう面も出てきます。

【委員長】はい、わかりました。これについては、今後検討していく必要があるということです。

7. **学校の特性** 『小規模校と大規模校のそれぞれの良い面と悪い面を理解し、議論の末に答えを出す必要があります。』この小規模校、大規模校の特性については一覧表でお渡ししましたし、平成28年の答申の中にも、大規模校、小規模校の良い面、悪い面が記載されています。皆さん読んでいるとは思いますが、議論しても答えが出ない部分もあります。ただ、良い面と悪い面が両方にあることを考慮し、適正規模を考えていく必要があります。

今までのところで何か特にご意見があればお聞きしますが、特になければ次に進みたいと思います。

【各委員】特に意見なし

【委員長】また全体を通してご意見を伺いますので、よろしくお願いします。

次に、『地域文化の重要性』についてです。『各集落や旧町村単位にはそれぞれの文化があり、その文化を継承するためには、その地域で育つことが大前提です。Iターン者を増やす考えもありますが、まずはその地域で生まれ育った人が文化を継承する心を育むことが重要です。』確かにその通りです。

次に、『各地区にはそれぞれ育んできた伝統文化があり、保護者や地区住民の学校や地域に対する思いは計り知れないものがあります。しかし、町内の人口減少と少子化はさらに加速し、将来的にも児童数の減少は避けられません。将来こうした適正配置をできるだけ早く進める必要があります。』とあります。地域の伝統文化は、それぞれの地域で公民館や集会所、地域の自治会でしっかり守っていくことが大事だと思います。学校もその中に含まれますが、あくまで地域の問題として、自治会組織の問題として、もっと活性化する必要があると感じました。

次に、『財政面の考慮』についてです。『町の財政状況が厳しい中で、財政面から統廃合を進める根拠を住民に示すことが必要です。お金の問題を隠さず伝えることが大事です。』財政面からの統廃合を検討するということですが、金井課長、今回の検討委員会は財政面の問題があるから統廃合を進めるということですか。

【金井総務学校教育課長】いやそういう意味は一切ありません。ただ、財政面をどう考えるかということですが、現状、小中学校合わせて11校あり、ここにかかる費用は予算をしっかりと確保した上で運営しています。財政的に良いのか悪いのかわかりませんが、数が減れば当然、今かけているお金より少なくて済むとは思いますが、しかし、この委員会では、そういった議論ではなく、先ほどからありますように、子供たちに適した環境がどういったものかを示していただければありがたいと思います。

【委員長】はい、ありがとうございました。次の3ページの一番上のところですが、『学校の統合を求めています、学校維持管理費、経費も含め、財政面での問題も絡んでくるため、町としてしっかり検討してほしいです。』課長、よろしくお願いします。

次に、『ICT機器の活用』についてです。『児童の人数が多い少ないにはメリット、デメリットがありますが、ICT機器を活用することで多様な考えで良い機会を作ることができます。体育などの活動では近隣校での交流学习を行う方法もあります。』少人数学級に対する対策です。その通りです。

『研修会において、AIやロボットの発達とグローバル化の進展で先を見通すことが困難な時代が来るとのことでしたが、子供たちにはグローバル社会を生き抜くために必要なスキルを身につけてほしいです。そのために、学校としての役割が重要です。』このグローバル化の問題は、隠岐の子供たちだけでなく、全国的に教育をしていかなければならないと思います。変化の激しい時代に対応できる子供たちを育てていかなければなりません。

次に、『部活動を地域移行することで、校区外申請をしなくて済むようにします。また、教員の負担軽減や働き方改革にも繋がると考えます。これには地域の受け皿として社会教育課や社会教育委員、地域のスポーツ等の指導者等の議論が必要です。』全国的に働き方改革も伴って

部活動、特に中学校の部活動を地域移行する、あるいはスポーツクラブ移行するという流れがあります。隠岐もそういう流れになってきていると思いますが、これも社会教育課の方でいろいろ検討していただきたいと思います。そういう意見が出ることを係長の方で社会教育課へ共有願います。

次に、『現存する小・中学校の教育環境の課題や問題点を整理し、地域、旧町村単位を超えての校区・学校の再編を考えることが子供にとって望ましいと考えます。その先も適正規模に届かない学校も出てくるので、町としてその辺も踏まえて検討してほしいです。』学校の再編についても検討委員会で十分考えていく必要があると思います。

『学校の適正配置は、今以上に子供たちにとってより良い教育環境にするための集団規模の確保と、教育の充実を目指すものです。将来的にも児童数の減少が避けて通れないため、将来を見越した適正配置を進めてもらいたいです。』この児童数の減少はなかなか食い止めることが難しいということで、今いろいろ話し合っているところです。

次に、『学校は単に教科の勉強をするだけでなく、集団の中で子供同士が多様な考えに触れ、他者の意見に耳を傾け、自分の思いを伝え、協力しながら互いに切磋琢磨することを通して、社会性や規範意識を身につけていくところにあります。そのためには一定規模の集団を確保することが必要です。』これを基にしてこの検討委員会では、小学校1学級20人、中学校25人が望ましいということを一応設定しましたので、これに向かって統廃合を検討する方向になっています。ご理解をお願いします。

『町と郡部にある学校規模に不均衡が生じているため、子供にとって望ましい教育環境を考えたとき、授業後の特別活動や学校行事、集団活動、部活動を行うにあたって、一定規模の人数を確保することが大切です。体育や音楽にはある程度の人数が必要です。』その通りだと思います。

ここまでで次は小学校、中学校の統廃合統合と配置についてですが、これについては次回になると思います。今までのところ全体を通して何かご意見やご感想があればお願いします。

【委員】本当にいろいろなことを考えてやるべきですが、この検討委員会としては、“子供のことを中心にやりましょう”という柱があれば、我々の回答や検討したものが出来上がるのではないかと思います。それからは、関係者や地域の方々と協力して進めていかなければならないと思います。皆さんいろいろな思いを持っておられ、大事な部分もたくさん出てきていますが、それを全部一気にこのメンバーで解決するのは難しいです。なので柱は、“子供ファースト”で、適正人数を20人と考え、この検討委員会を進めていくのが良いと思います。

【委員長】ありがとうございます。我々はあくまで教育長に検討結果を報告する立場です。何らかの形で報告をしなければなりませんので、委員がおっしゃったように、一応方向性を示し、その後は首長部局や教育委員会が計画策定して取り組んでいただくということですね。

【委員】我々の結論が即統廃合に繋がるということではないはずですが、我々の検討結果をもとにさらに議論が進められていくと思います。

【委員長】もちろん地域の意見を尊重しながら進めていかなければなりません。ただ、我々は先ほど委員の言葉からもわかるように、“子供ファースト”を中心に報告を行います。隠岐の島町

立小中学校のあり方検討委員会として、あくまで“子供ファースト”で考えていくことが必要です。

【委員】自分の意見をいっぱい書かせてもらったんですけどやっぱり広すぎたっていうのがあって、ぼやけたところもありますんで、やはり“子どもファースト”という考えがきちとなれば、議論しやすくなっていくと思います。

【委員長】感想でも何でも結構です。皆さんいかがですか。

【委員】先ほどの委員の意見に賛成です。広くやると本当にこの検討委員会の範疇を超えると思います。僕もだいぶ広く考えて提案書提出しましたが、これは絶対に考えなければならないことだと思って提出しました。“子供ファースト”という考え方ですね。こういう子に育ってほしいという議論をずっとしてきました。どうあるべきか、何校が適正なのかという話の場を決めることができると思います。その後、気がついたところを申し送りとして、別の場所で総合的に判断すべきだと思います。

【委員長】一応、当局へのお願いやりカバリー、整備などについても要望として出す必要があると思います。

【副委員長】さっきから子供の数のことばかり言っていますが、いずれその話はもう少し具体的に、説明も広がっていくでしょう。近い将来、それが来年度なのか、2年後なのか、10年後なのかわかりませんが、教育委員会の方々には無駄が多かったということを言いました。本当にこうやって進んでいく中で、保育園の現場だけでも老朽化が進んでいます。子供の数はどんどん少なくなっているけれども老朽化が進んでいます。

学校も運営しながら、一方ではお金をかけています。耐震や整備などのところで、できるだけそういうところも含めて、無駄なお金をかけないためにも、学校統廃合の問題や保育所の問題も一緒に考えてほしいです。公立に関しては、今それぞれ公立の保育所が五つありますが、それぞれのところでできるのかできないのかわかりませんが、莫大な金がかかってくると思います。

子供が成長過程の中で、保育所から小学校へ上がり、小学校から中学校へ進むことで、やはり大きくなる方が、子供の成長を助けるような気がします。人間は育てていくものですので、そういう方向になれば良いと思います。

【委員長】他に何かありますでしょうか。

【委員】その「大きな」というのは規模感の話ですね。PTA代表として来ていますので、保護者はまず我が子のことを考えますが、その中でいろんな保護者さんと話をします。やはり自分が生まれ育ったところに学校があって、そこに通わせたいという方もいますが、大多数の意見としては、ある程度の規模に達したら西郷小学校や磯小学校に通わせたいという方が多いです。最近、そういう学校に入りたいという方が増えてきていると聞いています。

また、家を建てるならば、そういったところに建てたいという方も多いです。仕事柄、建築に

携わる仕事をしているのでわかりますが、栄町などに土地を求めの方が非常に多いです。それはおそらく、学校に進学する子供たちのことを考えているからだと思います。

学校の配置をうまくすれば、一極集中が起きている現状をある程度の規模感で分散できるのではないかと思います。副委員長がおっしゃったように、ある程度の規模を求めていくことが重要だと思います。

【委員】私は西郷中学校や西郷南中学校に通わせるために引っ越すという考えはありません。今住んでいるところから通わせれば良いと考えています。そういう保護者の方もいると思います。もしその2校しかないのであれば、わざわざ引っ越すという考えはなく、今住んでいるところから通わせるという考えです。

【委員長】私は以前美保関の小学校に勤務していましたが、前にも話したように、美保関小学校は6校ありましたが、今は美保関に1校になりました。スクールバスで日本海側の先端から40分ぐらいかけて通学していました。スクールバスで40分ならまだ良いですが、日本海側から山まで歩いて、そこからバスで通学すると、通学に1時間ぐらいかかります。統廃合のときに、子供たちがある程度の人数の中で学校を楽しんでいる雰囲気があることが重要だと感じました。隠岐の島町の学校でも、児童数が少なくなっても、生活基盤はそんなに距離的に遠いと感じません。スクールバスで通わせることも考えられます。親としては、子供たちが楽しんで学校に通える環境を整えることが大切だと思います。

【委員】私が言っているのは、今学校がありすぎるから、そういうことが起きているということですね。今までは、希望する学校に行かせたいから引っ越ししてそこを選ぶということがありましたが、適正な規模になれば、今住んでいるところから通えば良いだけです。

【委員長】なるほど、そうですね。そこは今後の議論に委ねたいと思います。他に何かありますか。今後はもっと具体的に小学校と中学校の統合や配置について議論していきます。皆さんからの提案では、中学校についてはある程度目途がついています。いつになるかは別として、将来は2校で良いのではないかという意見が多数あります。これについて次回議論をしたいと思います。その上で、次は小学校をどうするかということで話を進めたいと思いますが、特に順番にこだわらなくて良いですよ。小学校が先だとか中学校が先だとか。

【事務局】事務局としては検討する順番はこだわっていません。

【委員長】皆さんどうですかね。ある程度結論が出る部分を先にやって、それをいつ頃が望ましいかについて考えてみたいと思います。来年や再来年の問題ではなく、あまり急なことをやるといけませんし、提案としては何年ぐらいが望ましいかを考えます。その上で、首長部局や教育委員会が地区等と話し合いを進めていくわけです。我々としては一応目途として、何年ぐらい、何年度ぐらいが望ましいかを考えていただきたいと思います。まだ中学校2校という結論が出たわけではありませんが、大体そういう方向ですので、よろしくお願いします。では、次回の会議日程を決めて本日の会議は終了します。

次回会議日程を決定した。

令和6年12月17日 13時30分から 303会議室

【委員長】以上で終わります。ご苦労さまでございました。

全てを終了した。